

Title	BIO - TECHNOLOGY関連特許の戦略的管理への試論 - 日米特許制度比較を中心にして -
Sub Title	
Author	紀谷倫有(Kiya, Michiari) 小林規威
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1991
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1991年度経営学 第832号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001991-0832">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001991-0832</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	紀谷 倫有 (中外製薬株式会社)	主査 小林 規威 副査 田中 滋 姉川 知史
所属	小林 規威 研究室	

## B I O - T E C H N O L O G Y 関 連 特 許 の 戦 略 的 管 理 へ の 試 論 - 日 米 特 許 制 度 比 較 を 中 心 に し て -

従来、わが国医薬品産業は専ら先進諸国からの革新的技術製品の導入に頼り経営を展開してきた。日本における医薬品関連特許が、この10年間で2.88倍にも増加したことは、自社技術・製品開発への努力が実りつつあるのを物語っているように思われる。この結果、一部の開発型中堅企業では海外市場依存度が約20%にもなるものも出てきている。今後の日本の製薬メーカーの対応はどうすればよいのか。

すなわち、日本とアメリカでは ①特許制度の内容 ②ディスカバリー ③クレームの取り扱い方 ④訴訟手続きなど、いずれも大きく異なっている。この点に対する適切な理解なしでは、今後の医薬品メーカーの海外進出を論ずることは難しい。

本研究においては、最近激しさを増し非常に重要な日米紛争の目となってきたバイオテクノロジーを応用した医薬品の争訟の検討分析に焦点を絞り、わが国医薬品メーカーのこの分野を中心にした海外進出の法的問題点を理解し、それを特許の戦略策定との関係で把握していきたいと思う。

このため、日米間の特許をめぐる紛争も増加している。本研究の目的は、特にバイオテクノロジー特許関連の米国裁判所の判例を分析し、今後さらに増加すると考えられる日米特許紛争の問題点を探り、関連製薬企業のバイオテクノロジー研究開発の将来に、必要かつ戦略的な特許管理を提言することである。